

令和3年度 第2回富士見市総合計画等審議会

議事録

日時	令和4年4月19日(火)		開会	午後7時05分			閉会	午後9時10分		
場所	富士見市役所1階 全員協議会室									
出席者	委員	鏡会長	今井副会長	秋元委員	朝賀委員	小林委員				
		○	○	○	○	○				
		齊藤委員	志摩委員	島田委員	鈴木委員	檜木委員				
		○	○	○	○	○				
		根岸委員	委員	山本委員	吉原委員					
	○	○	○	○						
事務局	政策財務部 水口部長 政策企画課 齊藤課長、甲佐副課長、味戸主査、上村主任									
公開・非公開	公開（傍聴者0名）									
議題	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p style="padding-left: 20px;">(1)行政評価の総括について</p> <p style="padding-left: 20px;">(2)審議対象基本施策（5施策）について</p> <p style="padding-left: 20px;">(3)企業版ふるさと納税充当事業に係る基本施策（1施策）について</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>									

議 事 内 容 (要 旨)

1 開 会 政策企画課長

2 あいさつ 鏡会長

<本市の現状について> 水口部長

3 議 事 鏡会長 進行

(1) 行政評価の総括について

事務局：(総括について、概要説明)

会 長：評価のポイントとして、政策のハード面については推進されたが、コロナの影響もありソフト面で遅れが生じたということである。

委 員：道路や下水の整備に遅れているとのことであったが、(議員等を通じて)市に伝えたところ、迅速に改修してもらえた事例もあり、評価としては低すぎる値となっている印象である。
また、みずほ台駅西口周辺は市の玄関であり顔となるところであるが、道路にひび割れが目立ち残念である。

事務局：市制施行50周年という節目の年に際し、市の玄関口である駅周辺の環境整備の重要性は認識している。本日の意見は、所管課へ伝える。

委 員：信号機の設置について、通学路で同じような事故が続いている箇所もある。道路整備とともに、子どもたちの安心安全に係る取り組みについて継続的に取り組んでほしい。

委 員：自己評価を基本としていることから、評価基準が明確となっていない。適切な評価を行うためには一定の基準を設定すべきである。

会 長：計画から達成までは検証することができるが、改善まで手が回らないこともある。ハード面の評価はできても、ソフト面の評価は難しい。現場は努力して目標値の設定をしていると考える。

(2) 審議対象基本施策(5施策)について

① 対象者へのアプローチ(人)(評価シート5-6-1)について

事務局：(評価結果について、説明)

会 長：当初設定した指標で判断できない場合(事業参加者数を指標とし、コロナ禍により事業実施できなかった場合等)については、指標を変更すべきであると考えている。

委 員：施策を実施するために予算確保していたが、新型コロナウイルス感染症により事業実施できないならば、しっかりと代替を検討すべきである。

委 員：町会活動などの場に来ない人に対し、どのようにアプローチしていくのかを考えていくことが必要である。今後、町会の高齢化が問題となり、広報の配付なども行えなくなることも想定される。外に出たがらない人をどう引っ張り出していくかが課題であり、新たな仕組みづくりが必要である。

委 員：埼玉県が行っている「ちいきデビューひっぱりガールズ」などの取組も参考にし、取り組む必要がある。

②自由な学びにより生きがいができる（評価シート10-15-2）について

事務局：(評価結果について、説明)

委 員：オンラインやSNSを活用した情報発信については、評価できる。一方で、オンライン、SNSの使い方について、分からない方や使えない方へのアプローチ方法はどうか考えているのか。

事務局：ハイブリッド開催の取組もある。DX推進の観点からも、デジタルデバイス対策を行っていく予定である。社会福祉協議会主催の事業ではあるが、Zoomを活用した事業の実施前にZoomの操作方法について研修したという取組も実施しているところである。

委 員：ガラケー等、所持している機器もそれぞれであるので、配信の工夫もしてもらいたい。

会 長：コロナ禍の影響で、リモートやZoomの普及が進んだ。それを活用した人材発掘も行われている。市としてもこれらに取り組んでいくことが必要である。

③「人」にあたたかい富士見市（評価シート総合戦略B-3）について

事務局：(評価結果について、説明)

委員：共働き世帯が増えていることや定年が延長されたこと等により、町会活動への参加者数が減少している。また、近隣のトラブルが増えたことやごみ問題も顕著である。ごみ集積のカゴを当番で集積所まで搬出する作業が高齢者には難しくなっている。当番をやらない人とのイザコザも絶えない。また、家の道路に面した部分が駐車場の家が増えたため、ごみの集積場を設置することができないケースも増えている。

委員：地域での協働に際しては、子どもを巻き込むことにより保護者も参加するようになる。学校も地域コミュニティの一つとして捉え、加えていくことが重要である。

委員：協働事業提案制度が分かりづらいため、分かりやすく使いやすい制度に改善が必要である。

④災害に強いまちと感じることができる（評価シート29-38-2）について

事務局：（評価結果について、説明）

委員：地域の防災訓練では、学校や町会単位の避難訓練よりも地域単位（班）の小規模な訓練を行うほうが、参加率が上がった。近隣住民による消火器訓練に特化した訓練を実施したところ、高齢者の方を含め参加率が高かった。より参加しやすい訓練をすることで、近隣とのコミュニケーションを図れることにもつながることから、さらなる工夫が必要である。

委員：災害時にトイレの問題が生じることについて、全体的に意識が低い。避難所における備品の充足も重要ではあるが、市民個々においても食糧備蓄と同様に意識づけが必要である。

委員：学校や町会単位で行う大規模な訓練も重要ではあるが、緊急時に必要最低限の事項を示したもの（1ペーパー）の配付による意識啓発も重要である。実際の災害時における初期行動など、まずは適切に行動できるように準備が必要である。

⑤良好な住環境のもとで生活ができる（評価シート24-32-2）について

事務局：（評価結果について、説明）

委員：空家対策も含め、PRが不足しており、市民に適切に届くように改善が必要である。

委員：空家利活用など補助制度は拡充されてきているが、利用が伸びていない現状や金融機関の空家除去に係る融資制度についても制度活用が少ない状況からみると、改めてニーズ把握を適切に行う必要がある。

会長：空き地は、所有者不明土地の問題となることが多い。

委員：相続登記が義務化されるなど法律改正があるが、どのような制度設計となり、市としてどう運用し、対応していくかを検討していくことが必要である。

委員：空き地(所有者不明土地等)について市に寄付するなどして、公園にするような仕組みづくりが必要である。

(3) 企業版ふるさと納税充当事業に係る基本施策（1施策）について

事務局：(企業版ふるさと納税制度の概要及び充当事業について説明)

会長：指標としては甘かったかもしれないが、評価は妥当かと思う。

委員：寄付したことで、貢献したことが分かるようになると、法人としてもメリットがあると思う。

4 その他

- ・議論の時間に限りがあったため、本日伝えられなかった意見などについては、意見シートにて提出することをお願いした。
- ・次回審議会の日程は、来年3月頃の予定とし、具体的な日程については秋口に調整することとした。

5 閉 会 今井副会長